

IT 協 ニュース

LPガスIT推進協議会会報

2008年 春号

目 次



■当社における「PHS+無線」と集中監視について

東條浩一・・・2頁

■「一層のガス利用の安全性とガス事業者の利便性を高める
集中監視システム(新バージョン)の検討について」

小坂恒夫・・・6頁

■事務局からのお知らせ

・・・7頁

当社における「PHS+無線」と集中監視について

東條浩一*

1. 「PHS+無線」

■現況

神奈川県内に5拠点（4営業所、監視センター）

全顧客数：約15、500件

稼動顧客：約14,000件（内訳 戸建：8000件、集合：5600件、業務用等：400件）

集中監視実稼動数：13,500件

稼働率：96.4%

共通方NCU：5,200台(39%)

無線子機：8,300台(61%)

PHS：750台

当社は早くから集中監視に取り組み95年には既に稼働率85%程度まで普及させて来たが、90年代半ばにISDNその後のADSLそしてFTTHとインターネットの普及、更には携帯電話の普及に伴い集中監視の稼働率が見る見るうちに低下して行きました。

そこで集中監視稼働率を維持するために「PHS+特小無線」の導入を検討、しかしながらヤミクモに設置しては当然経費過多になってしまう事から、先ほども述べた固定電話保有率が特に低い集合住宅への設置を第一に推進した。

ポイントとしては、定期通報はひとつの集合住宅で一部屋だけの未通報でもその一部屋の為に必ず行かなくてはなりません、一般的なアパートの部屋数であれば結局人件費は全部屋検針と変わらない事になります、であれば顧客の回線に依存しない「PHS+特小無線」を利用し確実に通報をとる事を考えました。

■センターの運用

センターソフトにおいてPHS+親機+子機+メーター（一部バルク超音波液面計）への書き込み通信パターンを、現場作業との兼ね合いを考慮しながら作成、ここでは如何に現場作業者を待たせない様な通信パターンにするかが重要であった。

PHS、親機までは現場に作業員がいる間に全項目を書き込むが、子機は通信に時間が掛かるため通信確認のみ行い詳細項目（メーター情報等）は夜間バッチとして通信パターンを実行し書き込み、日中の現場<>センターのやり取りを短時間で済ませる事が出来た。

その後センターソフトにオペレーターの入力作業がスムーズに行えるよう書式（登録表）を作成。

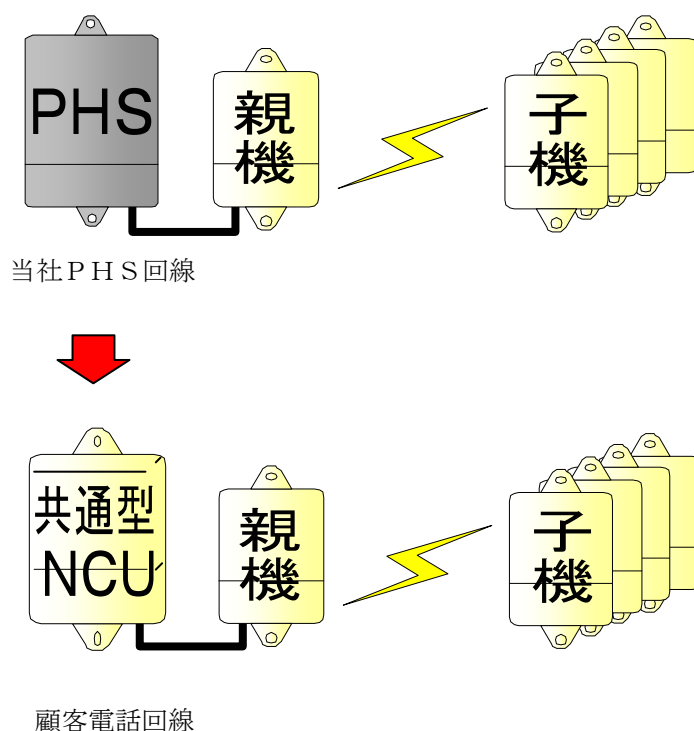
■現場設置作業

元々当社では集中監視施工の専従者が1名おり、その者に設置基準を作成させ、その後その者の指導の下ガスの不需要期に配送員を教育し設置作業に就かせた、PHSにAC電源不要のタイプを選定した事もあり特に経験や技術的には必要なく設置が出来たので、ほぼ2年で集合住宅に設置が完了。(1棟10世帯の集合住宅であれば、作業員1名で1日最低2棟は施工可能であった。)

■集合住宅以外の設置

前述の通り集合住宅への「PHS+無線」の設置がほぼ完了、無線の取り扱いに慣れ、業務用や集中監視設置拒否や施工が困難な戸建についてPHSが既に設置されている集合住宅近隣の物件に限りの設置を進めた。

また現在では「共通方NCU+無線」の施工も体系付け、少しでも集中監視における機器費用、通信費を抑えている。



■地図システムでの管理

「PHS+親機」の設置位置を地図上に残すことにより、事前に子機を設置したい物件の近隣に「PHS+親機」が設置されているか、またその距離はどれくらい離れているのかが判断で可能になり、また子機の不具合等が発生してもビジュアル的に何処に設置されている親機と関係を持っているかが一目でわかるので、現場作業員を机上でフォローが出来る様になった。



■集合住宅にPHSを設置した結果のメリット

集合住宅入居者は戸建と比較し滞納者の発生率が高く、その対処としてセンター側からからの遠隔閉・開栓が可能、また遠方の集合住宅の転居があった場合にも、支払いが滞っていない顧客であればやはり遠隔閉栓が可能。

また配送員に設置作業を短期間で数多く経験させられ、配送員の集中監視に対する意識が向上、現在では配送作業中に「PHS + 無線」の保守をしたり、中には共通型NCUの設置も積極的に取り組む者も出始めた。

2. 集中監視

実際に集中監視導入メリットの謡い文句は「保安」「検針」「配送の効率化」といいながらも、これらを本当の意味で活用出来ている企業がどれくらいあるかという点以外に少なく感じる。

■今だからこそ集中監視

検針に関して、最近「顧客との接点業務に力を入れるべき」などと言われますが、実際に在宅率はどんどん低下し検針は「何かを生み出す業務」では無くなって来ている様な気がします、であれば機械が出来ることは機械に任せ(燃料費も掛かりません)、アポイントを確実に行った上で別の形で接点業務(定期訪問・提案・保安点検)に時間を掛けるべきではないでしょうか、その際に集中監視の啓蒙活動も併せて行い「いつも見守っていますから安心してガスをお使い下さい。」と通報の履歴(保安)

情報をお見せすればお客様は販売店を信頼してくれるのではないのでしょうか。

また**配送の効率化**は特に昨今の燃料費高騰を考えれば重要な課題です、集中監視の「残量情報」、更に「5分前予告」、「合計増加流量遮断」等もお客様がガスを使う量が増えた始めた事を示している情報と捉えればこれほど有り難い情報はない筈です。

■継続的な管理

以外に販売店の現場レベルでは集中監視は「検針してくれるだけの機械」とのイメージが拭えなく、「未通報になったら自分で検針すればいい」と思ってしまう社員が多く、このレベルでは今の時代はすぐに集中監視の稼働率は下がり、気付いた時には未通報だらけになってしまいます。(当社では毎月自動検針率を算出し営業所間で競わせています)

企業として目的をもって集中監視を行うのであればやはり技術を持った社員を育成して行く必要があります、当社は監視センターに1名集中監視専従者を置き各営業社員で施工が困難な物件の場合にはその専従者に作業依頼を出す形にしています。そうする事によりその専従者にノウハウが蓄積され次第に各営業社員の技術力のUPに繋がります。

しかしながら集中監視の稼働率を維持するには、顧客の電話回線に依存する考えは部分的には捨てざるを得ないでしょう。

■費用

そこで経費的な問題を解消するにはどうするか？当社では集中監視設置当初から「監視料」として¥200～¥400円/月頂いております、これが安い高いは別として有償にしている販売店は以外に少ないと思います。そこで①価格改定時に基本料金を¥100～し¥200UPする。②PHSを設置した集合住宅であれば入居の都度「監視料」を頂いていく(いずれ全部屋から回収可能)。

※とり止めの無い話になってしまいましたが、当社では集中監視が機軸となって業務が動いていると言って過言ではありません、間違いなく言える事は『集中監視はガス販売における業務の効率化に必ず役立ちます!』

*河野商事(株) 取締役専務兼センター長



「一層のガス利用の安全性とガス事業者の利便性を高める集中監視システム (新バージョン)の検討について」

小坂恒夫*

1. はじめに

IT推進協議会では、4月23日に開催された第6回定時総会において、平成20年度の新規事業として、一層のガス利用の安全性とガス事業者の利便性を高めることを目的に、外部環境の変化等を鑑み今後10年を見据えた集中監視システム(新バージョン)の検討に着手することとしました。

主な検討内容としては、以下のとおりです。

- LPガスまたは類似サービス向けの無線周波数帯域を確保の検討
- 燃焼機器のライフサイクル管理、遠隔診断、遠隔制御など、実現可能なスキーム、機能分担・方式構成、試行実施等についての検討

2. 検討の進め方

コアメンバーで部会を構成して検討することとします。平成20年度は、ガス事業者等から意見を聴取した上で、一層のガス利用の安全性とガス事業者の利便性を高めるためのビジョンを策定することとします。

〈コアメンバー案(順不同)〉

(ガス事業者)

- ・ (株)JA-LPガス情報センター ・ (株)イングコーポレーション
- ・ 岩谷産業(株) ・ 三井丸紅液化ガス(株)

(メータ/システム)

- ・ 東洋計器(株) ・ 東芝メータテクノ(株)
- ・ リコーエレメックス(株) ・ 矢崎総業(株)

(燃焼機器)

- ・ 高木産業(株) ・ リンナイ(株)

(無線機器)

- ・ NECマグナスコミュニケーションズ(株) ・ 松下電器産業(株)

(システム)

- ・ (株)TRY24 ・ (有)コムフェイス ・ (株)ティージー情報ネットワーク
- ・ (株)システム&リサーチ ・ NTTテレコン(株)

3. スケジュールイメージ

平成20年度	平成21年度	平成22年度
ガス事業者様等から意見聴取し、ビジョンを策定	ビジョンの実現性の検討 機能分担・方式構成検討、等	試作・検証

* NTTテレコン(株) 営業本部

事務局からのお知らせ

1. 協議会近況行事の報告・お知らせ

3/12	<p>理事会</p> <p>場所 LP ガス IT 推進協議会事務所</p> <p>時間 15:00～17:00</p>
4/23	<p>第6回定時総会</p> <p>場所 (財)商工会館 6階 15:00～18:00</p> <p>総会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・19年度活動報告 ・19年度決算報告 ・20年度事業計画について ・20年度予算について ・賛助会費のアップについて ・特別会費について ・役員変更について <p>講演</p> <p>「今後のLPガス保安行政について」</p> <p>経済産業省 原子力安全・保安院 液化石油ガス保安課長 志方 茂氏</p> <p>懇親会</p> <p>昨年を上回る約80名の方々の参加を頂きました。</p>
5/14	<p>理事会</p> <p>場所 LP ガス IT 推進協議会事務所</p> <p>時間 16:00～17:40</p>
6/4	<p>集中監視システム次期バージョン開発部会第1会合開催</p> <p>場所 愛宕山弁護士ビル</p> <p>時間 15:00～17:00</p>
6/19	<p>関東液化石油ガス協議会様のご協力を得て同総会会場入口で当協議会メンバーの展示会を実施しました。5社が参加されました。</p>
6/23	<p>IT協ニュース2008年夏号刊行</p>
6/25	<p>定例研究会を実施します。</p> <p>日時 6月25日(水) 15:00～16:30</p> <p>テーマ 『無線式NCU“ガスキャッチ”の特長について』</p> <p>講師 JA-LPガス情報センター 統括営業部長 古谷野久信氏</p> <p>場所 愛宕山弁護士ビル</p>

2. 会員の入会、退会

入会

岡 誠次（コムフェイス）、柴崎俊浩（リンナイ）、浜田信行（NECマグナスコミュニケーション）、森井伸行（リコーエレメックス）、山崎 伸（金門製作所）、山崎貞男（サンリン）、吉岡邦明（矢崎総業）

新しく会員になりました。よろしくお願ひします。

退会

稲毛秀樹（金門製作所）、田島 孝（大阪ガスセキュリティサービス）、中村 修（サンリン）、永井清治（矢崎総業）、野田弘晃（野田プロパン）、松宮正憲（篠山ホームガス）、三好 實（リコーエレメックス）

協議会を支えていただきました。有難うございました。

3. 役員改選

今年役員改選の年です。次の方が就任、辞任されました。他の役員は重任されました。

就任（4月23日付）

森井伸行理事、山崎貞男理事、山崎 伸理事、吉岡邦明理事

辞任（4月23日付）

稲毛秀樹理事、中村 修理事、永井清治理事、三好 實理事

■ 編集後記

4月23日の第6回定時総会には、多くの会員の方々のご参加をいただき19年度の報告、20年度の計画もスムーズに進行、承認をいただき、誠にありがとうございました。また、経済産業省の液化石油ガス保安課長 志方 茂様の時間を延長しての力の入った講演を聞く、会員の皆様方の姿からは、保安に対する真剣さが伝わって参りました。

ところで、今年に入ってから世間では、立て続けに色々な出来事がありました。

多くの犠牲者を出した自然災害、消費者の関心が高かったガソリン税問題、食の「安全」を代表とする中国製餃子など。消費者にとって同じ物であれば、安いに越したことはありません。しかしそれが疑わしいとなった途端、当然ですが少々高くても安全を選ぶ人が多くなりました。できれば集中監視も販売事業者の為の物ではなく、消費者の為の物であることをもっとアピールし消費者に分かってもらいたいものです。また今年度からは、集中監視の次期仕様も検討することになっています。今後ともこの「IT協ニュース」から目を離さないようお願い申し上げます（沼野）。

.....
会報名 IT協ニュース 2008年春号（2008-6-23発行）

発行 NPO法人 LPガスIT推進協議会 発行人 直江重彦

東京都港区虎ノ門2-6-13 三木虎ノ門ビル 電話 03-3591-9686 FAX03-6240-4664

URL : <http://itkyo.or.jp>

E-mail t.abe@itkyo.or.jp



